

施設ナスで提案するグリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な作業名						◎ (定植)	(収穫)					
天敵放飼 農薬散布	⑥ ←					① ② ③ ④		⑤				
物理的防除					防虫ネット設置 (赤色でアザミウマの侵入 防止)	黄色粘着板設置			⑦ハウス内環境のモニタリング			

【ねらい】

- IPM（総合的病害虫管理）により、生物的防除、物理的防除、化学的防除を組み合わせることで病害虫の被害を抑制
- 化学農薬の使用量を削減、環境にやさしい農業の推進
- 農薬散布の回数を削減・省力化、多忙な時期でも病害虫が多発することがないという安心感が得られる

【①から⑥の作業の説明】

① 定植前～定植時に殺虫剤を灌注

② 天敵放飼前に害虫密度をゼロに

天敵放飼1週間前までに使用可能な薬剤を散布

③ スワルスキーカブリダニ放飼・・・アザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニの密度を抑制

バンカーシートを利用する場合は天敵餌用の花粉を散布

【注意】②で十分に害虫密度を抑制できない場合は、天敵放飼を遅らせる

【注意】タバコカスミカメのみで防除する場合は省略するが、チャノホコリダニや果実へた下のアザミウマ類の発生に注意

④ タバコカスミカメ放飼・・・アザミウマ類とコナジラミ類の密度を抑制

天敵の定着状況は、天敵密度とナスへの加害痕で判断

バンカープランツ（クレオメ）をあらかじめ定植しておく

【注意】ナスへの加害の影響を少なくするため、放飼はナス定植後数週間後とする

⑤ リモニカスカブリダニ放飼・・・冬期のアザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニの密度を抑制

春期からの天敵密度を維持増殖するために有効

害虫密度が十分低い場合等は省略可能

⑥ 天敵への影響の少ない薬剤を散布

害虫が局所的に発生している場合は、スポット散布とする

【注意】天敵対象外の害虫が発生しやすくなるため、早期発見に努める

【注意】病害抑制のための殺菌剤は予防剤を中心に定期的に散布する

⑦ 施設内環境をモニタリング・・・病害の発生しにくい環境づくり

早朝加温等による結露防止を図る

多点計測により温湿度むらを把握、改善する



アザミウマ侵入防止が期待できる赤色防虫ネット



長期的な効果を期待できるバンカーシート



バンカープランツで天敵を維持増殖



環境をモニタリングして病害の発生しにくい環境づくり